

ルト共ニ萬一漏洩セルコト明カトナリタル際ハ我方トシテ
モ直ニ發表スル必要アルニ付王部長ニ相談ノ上貴方ノ意向
至急通知アリタキ旨申聞ケ置キタリ

代理公使へ轉電セリ

2 中国沿海漁業問題

960 昭和6年1月13日 在上海村井総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

密輸による脱税防止のため外洋貿易従事の船舶
を百屯以下に限定方財政部より命令について

上海 本省 1月13日前着 発

第一〇號

十二日ノ當地中國諸新聞ハ裁釐情況ニ關シ左ノ如ク報セリ
各省ニ於ケル釐金廢止ノ成績ハ頗ル良好ニシテ遅クモ一月
十五日迄ニハ殘務整理モ完了スル筈ナルカ中央ニ於テハ右
裁釐ニ代ヘ新稅ヲ徵收スルモ尙年額一千七百萬元以上(地
方政府ヘ補助スルコトアルヘキ額ヲ含マス)ノ減收トナル
ヘク又各省政府ヨリハ夫々不足額補給方申出テツツアルニ
付財政部ハ目下各省ノ營業稅收入等ヲ參酌シ補給額審議中
ナリ尙財政部ハ今後沿海各地ニ於テ密輸入ノ行ハルヘキヲ
虞リ脱税防止ノ爲曩ニ行政院ニ對シ二百五十噸以下ノ船舶
カ外洋貿易ニ従事スルコトノ禁止方提議セル處今般審議ノ

結果百噸以下ト修正シ各海關ニ命令セル趣ナリ
北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、南京、廣東、蘇州、
杭州、蕪湖へ轉電シ、支へ轉報セリ

961 昭和6年1月15日 在青島川越総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

百屯未滿の外国発動機船の航海禁止が我が方
漁船に適用される場合の影響について

青島 本省 1月15日後着 発

第九號

上海總領事發閣下宛電報第一〇號末段ニ關シ
當地海關ハ本月七日海關監督ヨリ財政部ノ訓令ナリトテ一
〇〇噸未滿ノ外國輪船及電船ノ外國ト中國各埠間ノ航海ヲ
禁止スヘシトノ通牒ニ接シタル趣ヲ以テ去ル十四日本邦ニ
歸還セントスル發動機船ノ出港ヲ許可セサリシニ付早速當
方ヨリ交渉シタル處海關ニ於テハ本件ヲ當地限りニテ許否
ヲ決定シ得スト爲シ總稅務司ニ請訓セリ御承知ノ通當地水
産業ハ事實上殆ト邦人ノ獨占スル所ニシテ其ノ使用發動漁

船モ四十二隻ニ及ヒ居ル實狀ナル處之等漁船ノ大半ハ内地ヨリノ傭船ニ係リ何レモ漁期終了次第定期検査及修理等ノ爲本邦へ歸還スルヲ例トシ居レルヲ以テ萬一本規則カ漁船ニモ適用セラルル様ノ場合ニ於テハ當地邦人漁業ノ基礎ハ根柢ヨリ覆サレ其ノ死活問題トモナルヘク又一方本件ヲ餘リ正面ヨリ突込ミ過キル時ハ漁業權回收又ハ漁獲物課税問題等ヲ惹起スルノ虞アリ慎重其ノ成行ヲ注意中ナリ右不取敢

代理公使、南京、芝罘、關東廳へ轉電セリ

962 昭和6年1月22日

在福州田村總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

福州海關は台湾との密輸ないし脱税嫌疑を特別注視している状況について

福州 1月22日後発

本省 1月22日後着

第一一號

當地海關ハ二十日附ヲ以テ總稅務司ノ訓令ニ依リ登簿噸數一〇〇噸未滿ノ汽船又ハ發動機船ハ支那各港ト外國トノ通

運に申し入れの予定について

南京 1月29日後発

本省 1月30日前着

第九〇號

百噸未滿ノ船舶ノ外國貿易禁止方ニ關スル稅關告示ニ付テ横竹堀内ヲシテ稅關當局ノ意嚮ヲ確カメシメタル結果左ノ通

一、廿七日横竹ヨリ上海稅關側及 Walsham ノ意嚮ヲ尋ネタルニ何レモ本告示ハ密輸防止ヲ目的トシ外國船舶ニ對シテモ等シク適用アリトノコトナリシヲ以テ横竹ヨリ右ハ明カニ條約違反ナルカ稅關側ニ於テハ外國船ヲ除外スル意嚮無キヤト尋ネタルニ本件ハ關務署ノ命令ナレハ稅關限リニテ如何トモスル能ハスト答ヘ又「トロール」船除外方ニ付 Walsham ハ「トロール」船ハ出航ハ差支ヘ無キモ荷物ヲ積載シテノ入港ハ禁止スル方針ニテ稅(關)ノ伺出ニ對シテモ右ノ通指示シ居レリト述ヘタリ(上海稅關ニ於テ未タ本件告示ヲ出ササルハ右ニ付 I G ノ意見ヲ伺ヒ居ルカ爲ナリト述ヘ居タリ)

九 雜 件

二、廿八日堀内張ニ對シ前記 I G 側ノ意嚮ヲ話シタル上本

商航海ニ從事スルヲ得ス尤外國航路ニ從事セサルコトヲ條件トシテ沿岸及内河航路ニ從事スルコトハ從來通差支ナシ本令違反船舶ハ積荷ト共ニ沒收スル旨布告セリ右新布告ハ差當リ臺灣ト當對岸トノ間ヲ小型發動機船ニテ密輸ニ從事スル臺灣人等ニ直接關係アリ宋子文ノ密輸調査員臺灣派遣ニ次テ外人稅務司「フオウブス」(前福州稅務司ヨリ南京ニ轉セルモノ)外一名ヲシテ特ニ當南支方面ヲ調査セシメ又當地稅務司ノ語ル所ニ依レハ臺灣ヨリ興化泉州方面ヘノ密輸ニ備フル爲該地方ニ常關ヲ存置スルコトナレル由近來當方面海關カ臺灣トノ密輸乃至脱稅嫌疑ニ殊ノ外目ヲ光ラセ新稅率施行以來寧ロ實際以上ニ神經過敏トナレルヤニ認メラル

臺灣總督府へ轉報アリタシ

支、上海、厦門、汕頭ニ轉電セリ

963 昭和6年1月29日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

百屯未滿船舶の外國貿易禁止より善意の小型外國船貿易、トロール船漁業等の除外方張福

件告示ヲ外國船舶ニ適用スルコトハ明カニ條約違反ナル點ニ付張ノ意見ヲ質シタルニ張ハ實ハ本件ハ I G ノ建言ヲ採用シタル次第ニシテ専ラ密輸入防止ノ點ヨリ考ヘ條約トノ關係ニ付テハ深く研究ヲ重ネサリシモ英國ノ如キニ於テモ同様ノ制限(百五十噸未滿)存スル様記憶スト述ヘタルニ付(堀内ヨリ右ハ外國船舶ニ對スル制限ニ非スト說明セリ)堀内ハ自分ハ未タ何等上ノ命ヲ受ケ居ラサルカ密輸入防止ノ必要ナルコトハ充分諒解セラルルモ之カ爲絕對的ノ禁止ヲ行ヒ善意ナル小型外國船ノ貿易又ハ「トロール」船ノ漁業等ヲモ禁止スルノ結果トナルニ於テ我方トシテハ條約ニ基キカ匡正ヲ要求セサルヘカラス右ハ素ヨリ双方ノ好マサル處ナレハ例ヘハ本國官憲ノ證明ヲ有シ若ハ輸入港ニ於テ特別ノ手續ヲ經ルカ如キ小型船並「トロール」船ニ對シテハ除外例ヲ設クル様調整方法ヲ講シ得ラレサルヤト申入タルニ張ハ右ニ付テハ I G トモ相談ノ上更ニ話合フコトトシ度シト述ヘタリ尙其ノ際張ハ臺灣ト民國ノ小型船ニ依ル貿易額及船舶噸數ヲ承知シ度シト述ヘタルヲ以テ堀内ヨリ右數字入手方ヲ約セリ

三、右ノ次第ニテ本件ニ付テハ民國側ノ立場ヲモ考量シ善

意ナル貿易ヲ禁止セサル爲除外例ヲ認メシムル様交渉シ度キ處之カ爲ニハ前記堀内張ノ話合ノ如何ナル場合ヲ除外セハ可ナリヤ前記臺灣貿易ノ數字ト共ニナルヘク早日ニ御回示ヲ請フ

北平、奉天、青島、福州、安東、厦門、廣東、香港へ轉電シ南京、へ轉報セリ

964 昭和6年2月3日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

張福運が百屯未滿船舶の外国貿易禁止施行対象よりトロール船を三箇月猶予承諾について

上海 2月3日後発
本省 2月4日前着

第一〇六號

在上海總領事發本官宛電報第一號及往電第九〇號ノ二ニ關シ

一、二日三日ニ亘リ堀内ヲシテ張福運ニ對シ差當リ辦法考量方申入レシメタル結果張ニ於テ日本「トローラー」ノ困難ナル事情ニ鑑ミ稅關當局限リノ取計ヒトシテ本件告示ノ

三、往電第九〇號末段本件將來ノ交渉ハ別問題トシ目下(脱)ニ立往生ノ「トローラー」十數隻アリ差當リ右張ノ意見通取計ヒ方默認スルコトト致シタルニ付キ右ニ御含ミ置キヲ請フ

北平、奉天、安東、牛莊、青島、福州、厦門、汕頭、芝罘、廣東、香港へ轉電シ上海、南京へ轉報セリ

965 昭和6年2月5日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

善意の貿易・漁業を禁止せざる様係官に申し入れ方差支えなしとの宋子文陳述について

上海 2月5日後発
本省 2月5日後着

第一一三號

往電第一〇六號ニ關シ

件 四日宋子文ト會見ノ際本官ヨリ小型船及「トローラー」ノ禁止ハ密輸防止以外外國「トローラー」ノ漁業禁止ヲモ目的トストノ說モアルカ密輸防止ニ付テハ我方トシテモ充分ノ同情ト援助ヲ爲シ居レルモ善意ナル貿易乃至漁業ヲ禁止

「トローラー」ノ適用ヲ三ヶ月間猶豫スルコトヲ承諾シ直ニ右ノ趣I、Gニ内訓シI、Gヨリ日本側ニ於テ必要ト認ムル稅關ニ右ノ趣ヲ内訓スルコトニ話シ合ヒタル趣ナリ

二、右決定ニ先チ張ハ本件告示ヲ稅關限リノ解釋トシテ從來漁業ニ從事シ居ル「トローラー」ハ稅關ニ登録スル限リ從來通り出入シ得ル様張ヨリ稅關側ニ内訓スルノ案ニ付考量方ヲ約シタルモ其ノ結果稅關當局トシテハ右ノ如キ解釋ヲ下スニ於テハ左迄異存ナキモ之カ爲ニハ改メテ行政院ニ附議スルヲ要スヘク其ノ場合實業部交通部邊リヨリ漁業ノ立場上反對アラハ決定遷延スルノミナラス或ハ稅關側ノ前項ノ如キ取計ヒヲモ認メサルカ如キ決定ニ立至ル虞モ有之旁々我方ニ於テ本件除外例ヲ求ムル爲ノ交渉ニ要スル期間タケ現狀ヲ維持スル意味合ヒニテ前項ノ如ク致シ度シト述へ堀内ヨリ稅關當局ニ於テハ密輸防止ノ見地ヨリセハ「トローラー」ニ對シテ本件禁止ノ除外例ヲ認ムルモ差支ナシトノ見解ヲ有セラルル様ニ思ハルル旨並自分ニ於テ右稅關側ノ取計ヒヲ承諾スルモ本件交渉ニ關スル日本側ノ權利ヲ何等 prejudice スルモノト考へサル旨ヲ明カニシテ差當リ右ノ取計ヒニテ満足スルコトトシタル趣ナリ

966 昭和6年2月9日 在上海村井總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

市社会局が上海中国魚商に対し愛国の精神に基き日本魚類の販売を拒絶すべき旨勸告について

上海 2月9日後発
本省 2月9日後着

第五四號

當地漢字紙ノ報道ニ依レハ本邦漁船ノ中國沿海漁業並漁獲物ノ上海ニ於ケル販賣禁止問題ニ關シ市社會局ハ其ノ意見ヲ市政府ニ具申シ市政府ハ之ヲ外交部ニ移牒シ審査處理方願出テタル趣ナルカ其ノ大要ハ最近日本漁船ノ中國近海進出並漁獲物ノ上海ニ於ケル販賣ハ當地ノ魚市場ヲ紊亂シ魚

價ヲ低落シ中國帆船漁業ヲ全ク衰微セシメタルノミナラス「トローラー」漁業モ亦危殆ニ瀕セントシツツアリ中國漁業ノ前途ノ爲憂慮スヘキ現象ニシテ當地漁業組合力屢々日本漁船ノ抵制方ヲ請願シ來リタルハ誠ニ故ナキニ非ス政府トシテモ至急救濟方ヲ考究スル要アリト認メラルル處明令ヲ以テ通商ノ自由ヲ禁止スルカ如キハ徒ラニ外人ニ口實ヲ與フルニ過キサルヘク唯中國漁業施行規則第四條ニハ汽船及發動機船ノ漁業ハ登記ヲ要スル旨規定アリ日本漁船ハ中國國籍ニ非サルヲ以テ登記ヲ許可スヘキ筋合ニ非ス從テ此ノ點ヨリ日本漁船カ中國領海内ニ出入シ漁業ヲ營ミ漁獲物ヲ販賣スルヲ禁止スヘシト云フニアリ最後ニ市社會局ニ於テハ既ニ當地中國魚商ニ對シ愛國ノ精神ニ基キ日本魚類ノ販賣ヲ拒絕スヘキ旨勸告ヲ發シタル旨述ヘ居レリ青島、芝罘、奉天、關東廳長官ヘ轉電シ支、北平、南京ヘ暗送セリ

967 昭和6年2月11日

在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛(電報)

ピール税関長より百屯未滿船舶の外国貿易禁

ヲ排除スルニ努ムヘキコト明カナリ從テ目下在支英國船會社ニ於テハ其ノ「インタレスト」ヲ合同シ該合同ニ支那ノ「インタレスト」ヲ加入セシムルノ方法ニ付考究シ居レリト述ヘタリ

上海、南京ヘ轉報ヲ請フ

大臣、北平、奉天、青島、廣東、汕頭、香港、牛莊、芝罘、關東長官、福州、厦門、天津ヘ轉電セリ

968 昭和6年2月13日

在青島川越総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

百屯未滿船舶の外国貿易禁止の告示は密輸防止から日本漁業圧迫へと目的を代えているため税関長に抗議方請訓

青島

発

本省 2月13日後着

第二九號

往電第二六號ニ關シ

本件告示ハ最初密輸防止ヲ目的トスト稱セラレタルモ支那側ニ於テハ漸次其ノ内容ヲ變更シ外國貿易ト關係ナキ公海

止対象には中国籍トローラー漁船適用ない旨の
サーキュラー提示について

安東

発

本省 2月11日後着

第二一號

本官發支宛電報

第一六號

貴電合第一六二號ニ關シ

本十一日本官「ピール」税関長ヲ往訪シ本件告示ニ付其ノ後何等總稅務司ヨリ申越ノ次第ナキヤト尋ネタルニ「ピール」ハ十日朝該告示ノ適用範圍ヲ指示セル「サーキュラー」ニ接シタリトテ右本官ニ内示シタルカ本件制限ハ中國籍「トローラー」ニ適用ナキコト勿論ナリトノ趣旨ヲ明示シアリタリ

依テ本官ハ該告示ハ密輸防止ニ非スシテ外國漁船ヲ驅逐セントスル底意ニ出テタルモノト解セサルヲ得スト述ヘタルニ「ピール」ハ右ハ漁船ノミナラス支那ヨリ外國ノ「シツピング、インタレスト」ヲ一掃セントスル計畫ノ第一歩ニシテ將來機會アル毎ニ此ノ種ノ制限ヲ増設シテ外國ノ利益

ヨリ入港ノ漁船ニ迄適用スルト共ニ他方支那漁船ヲ除外セル等ノ點ニ顧ミ今ヤ邦人ノ漁業壓迫ヲ主眼トスルニ至レル事實ハ疑ノ餘地ナキヤニ觀察セラルル處當地ノ實情ハ累次電報ノ通本件實施ニ依リ邦人漁業ハ根本ヨリ覆サレ五百名ニ近キ當業者ハ直ニ失職ノ外ナク由々シキ問題ヲ惹起スルニ至ルヘク當地トシテハ理論上ニモ實際上ニモ本件實施ハ絕對ニ之ヲ認ムル能ハサル次第斯ノ如キ支那側ノ不當ナル壓迫手段ハ中央ニ於テ極力之カ防止方此ノ上共御手配ヲ得タク尙當館ヨリ當地稅務司ニ對シ(一)本件告示カ條約違反ナルコト(二)條約論ヲ別トスルモ禁止中ニ漁船ヲ包含セシムルコトハ告示ヲ不當ニ廣義ニ解シタルモノナルコト(三)又當地漁業ハ他地ト異ナリ山東條約ニ依リ保障セララルル既得權ノ一ニシテ斯ノ如キ告示ニ依リ左右セラルヘキ筋合ニアラサルコト等ヲ理由トシテ抗議ヲ提出シ稅務司ヨリ中央ニ對シ右抗議ニ基キ更ニ當地ノ實情ヲ詳細具申セシムルコトト致シ度キ處本件ハ他ノ地方ニモ關係アル次第ニ付當方トシテ右ノ通取計ヒ差支ナキヤ否ヤ何分ノ儀折返シ御回示相煩ハシ度シ
公使ヨリ上海ニ轉報ヲ請フ

支、南京、北平、安東、牛莊、廣東、福州、廈門、汕頭、
香港、關東長官、芝罘ニ轉電セリ

969 昭和6年2月17日 幣原外務大臣より
在青島川越總領事宛(電報)

百屯未滿船舶の外國貿易禁止に關し口頭をもつ

て稅務司に抗議方訓令

本省 2月17日後9時37分發

第一二號(暗)

貴電第二九號ニ關シ

本件ニ關シテハ代理公使宛往電第六〇號ノ通申送りタルニ
付稅務司ニ對シテハ口頭ヲ以テ御來示ノ如キ申入(抗議案
中ノ(一)ノ點ハ中國船トノ差別待遇ヲ指摘スルコトニ改ム)
ヲ爲シ貴地ノ實情ト共ニ之ヲ中央ニ具申セシムル様御取計
アリ度シ

支、南京、北平、安東、牛莊、廣東、福州、廈門、汕頭、
香港、芝罘、關東長官ニ轉電セリ

970 昭和6年2月17日 幣原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使宛(電報)

本船舶が香港地方同様中國各港に出入し得る
様交渉方訓令

本省 2月17日後9時40分發

第六〇號(暗)

貴電第九〇號ニ關シ

台灣南支間貿易ニ關スル數字ニ付テハ台灣總督府ニ照會中
ナルモ右調査ニハ諸種ノ困難アルモノ、如ク未タ回答ニ接
セス目下尚督促中ナル処本件禁止ハ其後貴官御調査ノ結果
香港澳門及廣東「デルタ」地方諸港間ノ貿易ヲ除外例トナ
シ居ルノミナラス中國「トローラー」ニ適用セサルコト疑
ヒノ餘地ナク結局右禁令ハ台灣方面ヨリノ密輸防止ト日本
漁船排斥トヲ目標トナシ居ルモノト見ルノ外ナキ次第ニテ
本件実施ニ付斯ノ如キ重大ナル差別待遇ヲ設クルニ於テハ
前記貴電堀内張間ノ弁法考究方ニ關シテモ全然考慮ヲ加フ
ルノ餘地ナシト認メラル、就テハ本件禁令ノ適用緩和方ニ
付貴官ニ於テ從來折角御尽力相成リタル次第ハアルモ貴官
ハ此際前記我方主義上ノ主張ヲ充分先方ニ徹底セシムルコ

トニ努ムルト共ニ貴電第一一二號ニ「レファア」シテ本件

ノ如キハ本邦ノ輿論ヲ刺戟スルコト尠カラサルヘキコトヲ
モ説カレスル差別待遇ノ存スル限リ事実上本邦船ノミヲ目
的トスル本件禁令ハ我方トシテ之ガ撤回ヲ要求セサルヘカ
ラサル立場ニアル旨ヲ説示シ少クトモ一切ノ本邦船舶
(「トローラー」ノミニ限ラス)カ香港地方同様何等特別
ノ手續ヲ經ルコトナクシテ中國各港ニ出入シ得ル様御交渉
相成度尤モ實際上ノ取扱トシテハ本邦船ノ事実出入スル中
國諸港稅關ニ對シ本令適用免除ノ訓令ヲ發セシムレハ足ル
次第ナルニ付貴官ハ各館ヨリノ報告ニ基キ實情ヲ説明セラ
レ特ニ安東、青島、上海各海關ニハ至急右訓令ヲ發スル様
御交渉相成度ク尚台灣ニ於ケル事情未タ充分判明セサル際
ニモアリ本件交渉ニ際シ南支地方密輸取締ニ關スル我方ノ
援助方ニ付深入リスルコトハ成ル可ク避ケ度キニ付右御含
ミノ上可然御取計ヒアリタシ

本邦ニ於テハ外國貿易ニ從事スル船舶ニ對シ何等噸數ノ制
限ヲ加ヘ居ラス御參考迄

上海へ轉報アリタシ

北平、南京、青島、福州、廣東、香港、芝罘、廈門、汕

頭、安東、牛莊、關東長官へ轉電セリ

971 昭和6年2月20日 在中國重光臨時代理公使より
在青島外務大臣宛(電報)

宋財政部長に對し日本のトロール船のみを禁
止することの不当なる点を指摘について

南京 2月20日後發
本省 2月21日前着

第一七七號

貴電第六〇號ニ關シ

十九日宋部長ニ面會シ貴電及各領事ノ報告ヲ詳細説明シ特
ニ密輸ノ中心タル香港澳門ト廣東南部ヲ除外スルノ不合理
ナルコト並ニ「トローラー」カ密輸ニ關係ナキコト及外國
籍「トローラー」ハ殆ント本邦船ナルカ彼等ハ何等漁業獨
占ノ必要ヲ認メス中國同業者ノ技術ノ進歩ノ爲之ト聯絡シ
得ル事情等ヲ述ヘテ日本「トローラー」ノミヲ禁止スルノ
不當ナル點ヲ指摘シタル處宋ハ頻リニ日本ニ對シ特別ニ差
別待遇ヲ與フル意思ハ毛頭ナキコトヲ繰返シ本件ハ海關側
ノ立案ヲ採用シタルモノナルカ御申越ノ次第ハ早速取調フ

ルコトトスヘシト述ヘタルニ付本官ハ自分ノ方モ調査完了シタル次第ニハアラサルモ事態ヲ明ニスル爲詳細文書ニ認メ提出スヘキニ付充分事情ヲ諒解セラレ右命令撤回ニ付考慮アリタキ旨述ヘ置ケリ

尙本件ニ付テハ堀内ヲシテ張福運ニ對シ同様ノ趣旨ヲ詳細説明セシメ前記材料ニ依リ張ニ於テ研究ヲ遂クルコトナリタリ

北平、青島、福州、廣東、香港、芝罘、廈門、汕頭、安東、牛莊、關東廳ニ轉電シ上海、南京ニ轉報セリ

772 昭和6年3月11日 拓務省殖産田(俊吉)殖産局長より
外務省武富通商局長宛

台湾総督府よりの密輸出取締り状況並び将来の実行方策等回答について

殖二第一〇三號 (3月12日接受)

昭和六年三月十一日

拓務省殖産局長 殖田 俊吉(印)

外務省通商局長 武 富 敏 彦 殿

小型船舶ノ外國貿易禁止ニ關スル件

稅關ニ於テハ豫テ臺灣在籍發動機船名簿ヲ支署監視所ニ配布シ取締上ノ參考ニ供シ又之ヲ對岸領事館ニモ送付セリ
又當府ニ於テハ昭和五年中二回發動機船ノ對岸不開港入港ニ關シ關係官廳ヲシテ當業者ニ注意セシムル様取計ヘリ
尙小型船舶ニテ輸出ノ酒精ハ往々出港後本島沿岸ニ廻航シ密輸入ヲ爲シ又其ノ他酒精稅免除ニ關シ不正行爲アルヲ以テ昭和四年十月以降小型船ニ依ル輸出ハナルベク之ヲ避ケ確實ナル汽船ニテ輸出スルヤウ誘導スルコトトシ事情止ムヲ得ズ戎克發動機船又ハ類似ノ小型船ニ依リ輸出ノ場合ハ陸揚證明書内外稅關及帝國領事館ノ證明アルモノニ限り證憑書類トシテ之ヲ認ムルコトニ取扱ヒ居レルヲ以テ右ハ酒精ノ對支那密輸入ヲモ相當防止スル效果アリト思料セラル將來ニ於テハ右取締方ノ勵行上稅關領事館相互間ニ此ノ種小型船舶ノ出港其ノ他取締上必要ナル通知ヲ頻繁ニ行フコトノ外特ニ領事館ニ於テ本島ヨリノ密貿易船ナルコトヲ認メタルトキハ直ニ其ノ旨稅關ニ通知シ押送スル様連絡ヲ計ルガ如キコトヲモ考慮シツツアリ

首題ノ件ニ關シ臺灣總督府ニ對シ密輸出取締状況並將來ノ實行方策等照會致候處今般左記ノ通回答有之候條可然御取計相成度

記

小型汽船ノ外國貿易船ハ稀ニ見ル處ニシテ密貿易ヲ爲スモノハ發動機船ナルガ其ノ密輸出反則件數ハ極メテ僅少ナリ、而シテ昭和五年末本島在籍登簿噸數百噸未滿ノ發動機船(帆ヲ有スルモノ及補助機關附帆船ヲ含ム)九四九隻一五、九九一噸(總噸數)ノ中大部分ハ漁船ニシテ其ノ外國貿易船ニ資格變更申請ノ場合ハ稅關ハ船舶運送營業取締規則ノ運送營業許可ヲ受ケタルモノニシテ船舶検査證ニ依リ航路定限内ノ貿易ニ從事スルモノニ限り之ヲ許可シ其ノ他ノ外國貿易發動機船ノ出港免許ニ當リテモ航路定限内ノ航海ニ從事スルモノニ限り之ヲ免許スル方針ヲ勵行シ其ノ他入港訊問船内検査必要ノ際ノ臨檢及一般監視等普通外國貿易船ノ取締方ヲ施行ス

漁船ハ頗ル多數ナル上出入等ニ何等制限ナク稅關ニ於テ一々臨檢スルガ如キコトハ不可能ナルモ平素其ノ行動ヲ查察シ疑ハシキモノハ特ニ注意取締ヲナス

973 昭和6年3月20日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

實業部より魚類は外國港よりの輸入、トロー
ル船は登録済のものに限り許可することとし
たい旨申し越ありとの關務署長談について

上海 3月20日前發

本省 3月20日後着

第二九七號

十九日財政部長ニ對シ過日申入レタル「トローラー」ノ問題ハ如何ニ進行シツツアルヤト問ヒタルニ貴方覺書ヲ實業部ニ廻付シ研究中ナル旨語レリ本問題ニ關シテハ十八日關務署長カ堀内ニ對シテモ最近實業部ヨリ魚類ノ輸入ハ外國ノ港ヨリ輸出シタルモノニ限り之ヲ許スコトトシ又「トローラー」ハ實業部ニ登録シタルモノニ限り漁獲物ノ輸入ヲ許スコトトシタキ旨(中國籍^捕ノモノノミニ限ルヤ外國籍^捕ノモノノヲモ許スヤハ明言シ居ラサル趣ナリ)申越シタリト述ヘタルコトアリ

本件ハ單ニ財政部ノ問題ノミナラス厄介ナル實業部ノ介入スルアリ又海關側ニ於テモ各國ニ於テハ外國ノ漁船カ力國

ヲ根據トシテ漁業ニ從事スルヲ許可セル事例ナントノ議論ヲ建テ居ル模様ニテ旁本交渉ハ當方ニ於テモ各方面ニ手配スヘキモ解決相當手間取ル模様ナリ
北平、奉天、天津、青島、安東へ轉電シ南京、上海へ轉報セリ

974 昭和6年3月28日 幣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

總稅務司訓令は日本側漁業への打撃甚大なる
につき至急該訓令公布差し止め交渉方訓令

本省 3月28日午後9時38分發

第一一五號(暗、至急)
貴電第二九七號ニ關シ

本大臣宛在安東領事發電報第四六號ノ總稅務司訓令ハ右貴電申越ノ実業部案採用ノ結果ト思考セラレ全様ノ訓令ハ他ノ稅關ヘモ發セラレタルコトカト思考スル処之カ実施ハ中國ニ於ケル邦人漁業ヲ全然不可能ナラシメ当業者ノ蒙ル打撃甚大ナルニ付右安東領事來電未段ノ次第モアリ此際貴方ニ於テモ中國當局ニ対シ右訓令ノ実行不可能ナル旨ヲ説示

ヘキモノナル旨ノ訓令ニ接シタリト述ヘ極メテ當惑シタル面持ニテ日本側トノ間ニ面倒ヲ起スハ其欲スル處ニ非サルニ依リ更ニ文書ヲ以テ申入ルヘキニ付再應IG宛申入ルル爲何分ノ儀公文ヲ以テ回答相成度シト希望シタルヲ以テ本官ハ自分トシテハ到底如斯不都合ヲ容認シ得サルハ勿論ナルモ問題ハ極メテ重大ナルヲ以テ慎重考慮ノ上返答スヘシト述ヘ置キタリ

當地邦人ノ魚類市場並ニ漁獲ニ關スル利益ハ累次ノ報告ニ依リ御承知ノ通りナル處目下漁獲專業ノ邦人船舶(機關船ヲ除ク)ハ約二十數隻アリ他地方ヨリ入港ノ漁船亦多數ニ上ルヲ以テ右實施ハ必然ニ日本人漁業並ニ魚商ノ絶滅トナルヘキニ付テハ此際公文ヲ以テ拒否ノ回答ヲ發シタキ所存ナル處右差支ナキヤ何分ノ御回訓相成タシ
支、奉天、北平、關東長官、青島、天津へ轉電セリ

976 昭和6年4月3日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

堀内をして実業部漁牧司長高秉坊に面會の上
在中國邦人漁業の実情説明について

セラル、ト共ニ本件ハ小型船舶ノ貿易禁止トモ密接ノ關係アルヲ以テ全問題未解決ノ今日此上事態ヲ粉砕セシムルコトナカラシムル為メ各地稅関ニ於テ右訓令ヲ公布セサル様至急御交渉相成リ結果回電アリタシ

北平、奉天、天津、青島、安東、南京、關東廳へ轉電セリ
(關東廳へハ冒頭貴電ト共ニ轉電セリ)
上海へ轉報アリタシ

975 昭和6年4月2日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛(電報)

關務署より五月一日以降安東に外國漁船の停泊
禁止方訓令に接した旨のピール稅関長談について

安東 4月2日後發

本省 4月3日前着

第五五號

往電第四六號末段ニ關シ

本二日稅関長「ピール」本官ヲ來訪シ昨夜總稅務司經由關務署ヨリ五月一日以降當安東縣ニ外國漁船ノ止マルコトヲ許ササル旨並ニ往電第五四號海關告示ノ禁止ハ之ヲ強行ス

上海 4月3日後發

本省 4月3日後着

第三六三號

往電第二九七號ニ關シ

二日堀内ヲシテ實業部漁牧司長高秉坊ニ面會ノ上在中國邦人漁業ノ實情ヲ説明シ其ノ何等中國人漁業ヲ壓迫スルモノニアラサル事情並現行條約ニ依リ邦人カ正當ノ業務トシテ從來經營シ來リタル漁業ヲ突然禁止スルニ於テハ多數邦人漁業者ハ數百萬ノ資本ヲ失ヒ忽チ生計ニ窮スルニ至ルヘク斯ノ如キハ現行條約違反タルノミナラス近世國家ノ實際政治ニ於テ未タ前例ナキ處ナレハ之等邦人正當業者カ引續キ漁業ニ從事シ得ル様辦法ヲ講セラレマシキヤト述ヘタル處高司長ハ邦人漁業者ハ往々領海内ニテ漁業スルモノアルノミナラス其ノ公海ニ往來スルモノモ領海内ニ於ケル中國人ノ漁業ヲ妨碍スルカ故ニ江蘇、浙江、福建上海等ノ漁業團體ヨリ屢々之カ禁止方ヲ請願シ來リ居リ他方民國(民國十八年十一月十一日公布)漁業法第三條ニ依レハ中國船舶ニシテ實業部ニ登記セラレタルモノノ外漁業ヲ許スヘカラサル旨規定シ居ルヲ以テ實業部トシテハ外國船ノ漁業(領海

漁業及中國港ヲ根據地トシテ公海漁業ニ從事スルコト)ヲ禁止スルコトトシタル次第ニシテ右ハ法律ノ命スル處ナレハ如何トモ致シ難ク之カ條約ニ違反スルヤ否ヤノ問題ハ外交當局トノ間ニ解決セラレタシト述ヘタルニ付堀内ヨリ右漁業法ト條約トノ關係ニ付テハ近ク外交當局トノ間ニ交渉開始セラルルコトトナルヘク之ヲ別問題トスルモ從來何等支障ナク善意ニ從事シ來リタル邦人ノ漁業ヲ突然禁止スルカ如キハ條理上ヨリモ認メ難キ處ナレハセメテ右交渉ノ結末ニ至ル迄本件禁止ノ實施ヲ猶豫スル等何等辦法ノ考量方ヲ希望シ置ケル趣ナリ

右ニ依リ本件ニ對スル實業部側ノ意向カ頗ル強硬ナル事情ハ御推測ノ通ナルヘク近ク外交部ニ對シ交渉スヘキモ主管部局ノ意向右ノ通トスレハ本件我方ノ希望ヲ認メシムルコト極メテ困難ナリト思考セラルル處本官ニ於テ (一字分) 執ルヘキ措置ニ付テ御考案ノ次第ハ早日ニ御垂訓ヲ請フ北平、奉天、青島、天津、安東へ轉電シ上海、南京へ轉報セリ

於テハ中國船ハ領海漁業迄モ独占シ居ル事實スラアリ小型船舶問題モ未タ何等解決ヲ見サル今日此ル世界ノ通則ニ反シタル暴挙ヲ敢テシ而モ事實上ハ專ラ本邦漁船ノ排除ヲ目標トスル手段ニ出ルハ中國ノ為ニモ之ヲ惜シム次第ニシテ我方トシテハ其ノ反省ヲ求メサルヲ得ス殊ニ若シ五月一日ヨリ愈々右實施ヲ見ルニ於テハ日露漁業問題以來海外邦人漁業ニ付特ニ敏感トナリ來レル本邦輿論ヲ刺戟シ對中國感情ヲ著シク悪化セシムル惧多分ニ存スト思考セラル就テハ若シ中國實業部等ニ於テ本件交渉ヲ回避セントスルカ如キ態度ナルニ於テハ貴官ハ直接外交部ニ對シ本件告示力事實上邦人漁獲物ノ輸入制限トナリ通商ノ自由ヲ妨害シ中國近海ニ於ケル邦人漁業ノ現状ニ重大ナル變更ヲ來スモノトシテ嚴重抗議ヲ申入レラルト共ニ前述ノ諸臆ヲモ篤ト援用セラレ本件阻止方特ニ御配慮相成リ結果折返シ回電アリタシ

北平、奉天、青島、天津、安東、南京へ轉電シ貴電ト共ニ
閩東長官へ轉電セリ

上海へ轉報アリタシ

977 昭和6年4月9日 幣原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使宛(電報)

日本漁船排除は日本の對中國感情を悪化させかねないため直接外交部に嚴重抗議申し入れ方訓令

本省 4月9日後9時発

第一三一號(暗)
貴電第三六三號ニ關シ

中國當局カ漁業法中ノ登記ニ關スル規定ヲ楯ニ本邦漁船ヲ排除セントスルモ右ハ正面ヨリ外國船漁業ヲ禁止スルト何等違フ所無キ次第ナル処(在上海總領事發本大臣宛電報第五四號参照) 当方ニ於テ曩ニ英、米、加、佛、伊、瑞典、諾威、丁抹、和蘭、濠洲、菲律賓、蘭領印度等ノ諸國ニ於ケル此種事例ヲ取調ヘタル結果ニ依レハ外國人ニ對シ領海内漁業ヲ禁止スル例ハ多々アルモ其ノ領土内ニ於テ領海外漁撈ノ為メノ準備行為(物資ノ買入、仕立船ノ組立、漁獲物ノ陸揚等)ニ付之ヲ禁止スルモノナク(稀ニ多少ノ制限ヲ加ヘ居ルモノアルノミ) 本邦ニ於テモ露國々營企業ハ函館ニ於テ北洋漁業ノ準備行為ヲ為シ居リ他方中國人ハ印度支那暹羅等ニ於テ漁業ニ從事シ居ルノミナラス英領香港ニ

978 昭和6年4月9日 在安東米沢領事より
幣原外務大臣宛(電報)

ピール税関長が日本側に實力阻止の形式を執られたる旨提言について

安東 4月9日後発
本省 4月9日後着

第五九號
往電第五八號ニ關シ

魚類輸入禁止告示カ當地ノ事情ニ照シ實施困難ナルコトハ税關側自身ニ於テモ明カニ之ヲ認メ現ニ「ピール」税關長ハ右ノ旨總稅務司宛電信スルト共ニ他方往電第五五號關務署訓令接受以來中間ニ立チテ如何ニ處置スヘキヤニ付苦慮シ居ル次第ナル處七日「ピール」ハ當地滿鐵地方事務所長ヲ訪問シ極秘ノ相談トシテ税關ニ於テハ愈々五月一日ヨリ日本漁船ノ入港ヲ禁止セサルヘカラサル次第ナルカ右ハ其不當ナルニ鑑ミ當地日本人ノ反對極メテ強硬ニシテ到底之ヲ禁止スル事ハ事實上不可能ニ屬ス去リテ税關トシテハ中央ノ命令ナル以上何事モ爲ササル事能ハサルニ依リ同稅關巡邏船ヲ一定ノ場所ニ差向クヘキニ付時間ヲ見計ヒ關東

廳モ船ヲ出シ形式上税關船ノ前ニ於テ日本漁船ノ保護ヲスル形ヲ執ラレタク然ル上ハ税關船ハ直ニ引上ケ日本側ノ實力阻止ニ依リ禁止ノ強行不可能ナリトノ見地ヨリ爾後漁船ノ入港ニ干渉セサル事ニスヘキカ如何ト述ヘ尙前顯關務署ノ訓令ニ對シ今一應中央ニ對シ日本側現地官憲ノ立場ヲ明カナラシムル爲本官ヨリ速ニ強硬ナル抗議ノアル事ヲ希望シ居ル旨竝ニ右ノ方法ニ依ル實力阻止カ中央ノ問題トナラハ本件ハ却テ急速ノ解決ヲ見ルヘシト附言シタル趣ナリ御參考迄(電信課註前電無號ハ第五八號ト推定セラル)

往電第五五號並第五八號ト共ニ公使ヨリ上海、南京へ轉報ヲ請フ

支、北平、奉天、青島、天津、關東長官へ轉電セリ

979 昭和6年4月10日 在青島川越總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

中央での交渉解決まで海関告示適用延期取付
け方稟申

青島 4月10日後発
本省 4月10日後着

殊ニ何等ノ補償ヲタニ得ル事ナク一舉ニ生活ノ途ヲ斷タルヘキ無智無産ノ漁民カ自暴自棄ノ態度ニ陥ルハ誠ニ無理カラヌコトニテ其結果各種突發事件ヲ惹起シ延イテ意外ノ不詳事件ヲ誘發スルナキヤヲ保セサル狀況ニテ事態頗ル憂慮ニ耐ヘス

本件邦人漁業問題ニ付折角中央ニ於テ御交渉中ノ次第ハ充分承知シ居ルモ當地ノ實情前記ノ通ニシテ且期限モ切迫シ居ル次第ナレハ此上共至急本件解決方御高配ヲ得度ク少クトモ五月一日以後ト雖モ本件中央ニ於ケル交渉解決迄ハ漁船入港ニ關スル先般ノ告示並ニ漁獲物搬入ニ關スル告示ハ之レカ適用ヲ延期スル事ニ諒解ヲ取付ケラレ度ク又萬一全般ノニ右諒解ヲ得ル事不可能ナルニ於テハ當地並ニ安東ノ如ク漁業問題ニ重大關係ヲ有シ且條約上又ハ地理的關係上特殊ノ事情ニ在ル地域ニ對シテノミニテモ本件告示適用延期ヲ認メシムル様至急御配慮相煩度右重ネテ稟申ス

在支公使、北平、南京、安東へ轉電セリ

九 雜 件
980 昭和6年4月15日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

第六六號
往電第六三號ニ關シ

海關告示ニシテ其儘實施セラルルニ於テハ來ル五月一日以後當地五百名ノ本邦ノ漁業者ノ營業ハ全然不可能ニ陥リ多額ノ投資ハ水泡ニ歸シ右漁業者カ軍政時代ヨリ十數年間ニ亘リ從事シ來レル生業ハ奪ハレ多數ノ家族ト共ニ衣食ノ途ニ窮スル次第ニシテ右ハ本邦漁業者ニ取り極メテ重大ナル問題ナルニ鑑ミ不取敢當地稅務司ニ對シ中國側ニ於テ當地本邦人漁業ノ有スル特殊地位ヲ考慮セス一片ノ海關告示ヲ以テ合法且公正ニ取得セル既得權ニ基ク營業ヲ事實上禁止スルカ如キ措置ニ出ツルコトノ不都合ヲ詰リ當地ノ實狀篤ト諒察ノ上本件告示ヲ至急是正スル様書面ヲ以テ嚴重抗議スルト共ニ館員ヲシテ重ネテ當地ノ實狀ヲ詳述セシメ置キタル處昨今治外法權撤發問題ニ關シ當地方在留邦人ニ於テハ相當神經ヲ惱マシ省内居留民大會ヲ催シ政府ヲ鞭撻スヘシトノ氣勢ヲ擧ケ居ル折柄本件ノ如キ條約ニ違反シ正理ヲ無視セル中國側ノ態度ニ對シテハ在留民間ニ於テモ強硬論ヲ主張スルモノ多ク最近ニ於テハ漸次中央ノ交渉遅延ヲ非難スルノ傾キアリ

王外交部長に海関告示が日本漁船の排除となつ
ている点を抗議の上日本漁業の実状を説明について

上海 4月15日後発
本省 4月15日後着

第三九四號

十四日王部長ニ會見ノ際漁船ノ問題ニ付左ノ通應答セリ

一、本官ヨリ漁船ノ禁止ニ關シテハ海關ヨリ二個ノ命令ノ發布ヲ見タルカ右日本側ノ承認シ難キ處ナリ命令カ海關ヨリ出テ居ルニ付今日迄海關及財政部側ト交渉ヲ續ケタル結果當初右ハ全ク密輸防止ノ爲ナリトノ説明ナリシカ當方ニ於テ研究ノ結果ハ右ニ依リ密輸防止ノ目的ヲ達成シ得サルコト判明セルニ付財政部側ノ反省ヲ促シ置ケルカ最近ニ至リ右ハ單ニ密輸防止ノ爲ノミナラサルコト明カトナレルヲ以テ事態益々重大トナリタル譯ナリトテ貴電第一三號等我方ノ立場ヲ詳細説明シタル覺書ヲ手交シ右規則ハ五月一日ヨリ實行セラルルニ付速ニ本件ヲ考究セラレタク交渉進行中ハ本規則ノ延期方取計ハレタシト述ヘタルニ

王部長ハ本件ニ付テハ國務會議ニテ最近實業部長ヨリノ説明ヲ聽キタルコトアリ何レ調査ノ上御返答致スヘキモ

實業部長ノ説明ニ依レハ日本漁船ハ民國領土ヲ根據トシテ
民國領海ニ於テ漁獲ニ從事シ居レリトノ事ニテ果シテ然ラ
ハ右ハ poaching ニテ實業部長ノ説明ニモ理窟アリト思ハ
ルル趣旨ヲ語レリ

二、右ニ對シ本官ハ實業部長ノ説明ノ一半ハ事實ニ相違セ
リ日本漁船ハ公海ニ於テ漁業ニ從事シ領海ヲ目的トセス從
テ貴部長ノ言ハルル poaching ノ問題ハ起ラス且亦彼等カ
中國ノ領土ヲ根據トシ居ル事ハ事實ナルカ日本政府ノ調査
ニ依レハ右ニ付テハ何レモ禁止ヲ爲シ居ル國ハナク從テ禁
止規則ハ國際ノ通則ニ反スト言フヲ得ヘシ此問題ハ國家主
權ノ問題トハ關係ナキ事柄ニシテ一部ノ中國漁業者ノ運動
ノ如キハ理由ナキ事ナルノミナラス日本漁船ノ漁獲物ハ如
何ニ本件中國側取扱者及消費者ニ利益ヲ與ヘ居ルカハ調査
セラルレハ明トナルヘシト述ヘ詳細事態ヲ説明シタルニ
王部長ハ國際通則ニ反スルカ如キ意圖ハナキモ自國ノ領土
ヲ根據地トシテナス外國船ノ漁業ヲ禁スルハ中國ノ如キ國
情トシテハ何等差支ナシト考フル旨述ヘタリ

本官ハ之ニ對シ右ハ國際通則ニ反スルノミナラス右ノ如キ
議論ヲ以テスレハ日本人カ中國ニ各種工場ヲ建テ營業ニ從
電第三六三號ニ依リテモ之ヲ知ルコトヲ得ル次第ニテ南京
ニ於ケル外交部トノ交渉不調ニ了リ兩國間ニ不愉快ナル紛
争ヲ惹起スルコト、ナラハ右ハ甚タ遺憾ニシテ斯ノ如キ事
態ノ發生ハ兩國ノ爲メ出来得ル限り避ケ度キコト勿論ノ議
ナルニ付貴官ニ於テモ此上共實業部当局ニ對シ適當ノ措置
ヲ執ラレ度尚小型船舶問題ニ付テモ例ヘハ總稅務司ト懇談
ヲ遂クル等可然方法ニテ内部的ニ財政部ヲ説得セシムル等
御配慮相成交渉ノ結果ハ折返シ回電アリ度シ
上海へ轉報アリタシ
北平、奉天、天津、青島、南京、安東、關東長官へ轉電セ
リ

(付箋一)

本件別電第一項ニ関シ

支那側ハ外國船ニ依ル公海漁獲物ノ支那陸揚ヲ輸入ト認メテ
本件制限規定ヲ適用スルコト、シ中國船ニ依ル公海漁獲物ノ
中國陸揚ハ輸入ト認メス從テ本件規定ヲ適用セサル処右ハ甚
タ不合理ナリ、若シ公海漁獲物ノ陸揚ヲ輸入ト認ムルトセハ
漁船ノ内外ニ依リ區別スヘキニアラス殊ニ日支關稅協定第二

事スルコトハ既ニ承認セラレ居リ中國人モ亦日本ニ於テ同
様ノコトヲナシ居ルニ拘ラス之等ノ營業ヲ勝手ニ禁止スル
コトヲ得ルトスルカ如キハ友好ノ精神ニ反スルモノナリト
ノ趣旨ヲ述ヘ尙如何ニ安東及青島ニ於テ之等規則ノ實行カ
無理ナルカヲ詳細述ヘタル處王部長ハ本件ニ關シテハ實業
部長トモ相談シ出來ルタケノ考慮ヲ拂フヘシト答ヘタリ
次ニ實業部長ヲ訪問シ右外交部長宛覺書ノ寫ヲ手交シ各方
面ヨリ詳細ニ事態ヲ説明シ其考慮ヲ促シ置ケリ
北平、奉天、青島、天津、安東、南京、關東廳ニ轉電シ上
海ニ轉報セリ

981 昭和6年4月25日 幣原外務大臣より
在中國堀内公使館書記官宛(電報)

日本人漁業禁止に關し總稅務司との懇談をもつ
ことで財政部を内部的に説得する様配慮方訓令

第一四九號(至急、暗) 本省 4月25日後5時44分發

本大臣發在南京領事宛電報第一一五號ニ關シ
外國船漁業禁止ニ関スル實業部ノ決意ノ強固ナルコトハ貴

余ニ依リ支那ハ輸出入ニ付我方ニ對シ内國民待遇ヲ約シ居ル
次第アリ(尤モ從來日本船ニ依ル漁獲物ハ輸入稅ヲ払ヒタル
モ支那船ニ依ルモノハ払ハサル由)從テ右ノ趣旨ニテ抗議ス
ルコト如何

(付箋二)

六、四、一八 漁業

漁船ニ関スル貴電別電第一項ニ關シ別紙意見ハ面白キ議論ト
思ヘリ利用出來サルヤ 守島
西兄

982 昭和6年4月25日 在中國堀内公使館書記官より
幣原外務大臣宛(電報)

張福運、孔實業部長に對し百屯未滿船舶の外國
貿易禁止海關告示の延期方申し入れについて

南京 4月25日前發
本省 4月25日後着

第四一二號

廿三日日本官張福運ニ對シ同日土村ト外交部側トノ話合ノ結
果ヲ齎ラシ本件交渉中禁止實行ノ延期方ヲ申入レタル處張

ハ關係各部ニ於テ反對ナキ限り自分ハ何等異存ナキモ前回ノ延期ハ自分限りニテナシ居レル爲今回ハ事前ニ宋部長ノ承諾ヲ得ル要アリト答ヘタルニ付本官ヨリ宋部長ニ對シテハ本官ヨリ改メテ御願ヒスヘキモ張ヨリモ然ルヘク執成方ヲ依頼シ置キタリ

(二)廿四日午前孔實業部長ニ面會(廿三日ハ部長他用ノ爲面會出來ス)ノ上本件外交財政兩部側トノ交渉ヲ説明シテ延期方ニ付諒解ヲ求メタル處孔部長ハ右兩部ニ於テ異存ナクハ實業部トシテモ強ヒテ反對セサルヘシ尤モ右延期ハ當然一定ノ期限ヲ限ルヘク無期限ニ之ヲ延期スルコトヲ得スト述ヘタル上本邦漁業者力領海内漁業又ハ領海内通過ニ依リ中國漁業者ニ對シ常ニ損害ヲ及ホシ居ル爲各地ヨリ強硬ナル反對アル事情ニ付從來ノ所說ヲ繰返シタルニ付本官ハ四月廿一日附機密拙信附屬説明書ノ趣旨ヲ詳細説明セリ又孔部長ハ十四日代理公使ヨリ外交部長ニ提出シタル覺書第五項各國ニ於テ外國船力遠洋漁業ノ爲自國港ヲ利用スルコトヲ許シ居ルヤ否ヤハ本件考量ニ對シ相當參考トナルモノト考ヘ居リ右各國ニ於ケル實際ヲ取調中ナリト述ヘタルニ付本官ヨリ右第五項ノ事例ハ我方各在外公館ニ於テ二三

日本人漁業禁止に関する海関告示につき期限を設けず暫行的に実施延期交渉妥結方訓令

本省 4月28日後9時13分發

合第二五六號(大至急、暗)

本大臣宛堀内書記官發電報第四一二號及全上村領事發電報第二四四號ニ關シ

貴官等段々ノ御盡力ニ依リ中国側各当局ニ於テ本件実施延期ニ反対セサル模様トナリタルニ付テハ差当リノ解決策トシテハ単ニ暫行的ニ実施ヲ延期セシムルコト、シ右延期ニ付何等期限ヲ設ケサル様致シ度キニ付出來得ル限り右趣旨ニテ妥結方此上トモ精々御盡力アリタシ

(上海、ハハ) 南京ニ電報セリ 上海へ轉報アリ度シ
(南京、ハハ) 堀内書記官へ電報セリ

北京、奉天、天津、青島、安東、關東長官へ轉電セリ

984 昭和6年4月28日

在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)

外交部と百屯未滿船舶の外国貿易禁止に関する税関告示の実施延期方法決定について

年前當該各港ノ法規ニ依リ調査シタル結果ナレハ今日ノ取扱ト左シタル相違ナルヘシト説明シタル上本問題ハ今後ノ交渉ニ依リ合理的ニ解決セラルヘク夫レ迄ハ本件禁止ヲ延期スルコト必要ナル旨念ヲ押シ置キタリ

(三)本官ハ右會談ノ後重ネテ張福運ヲ訪ヒ右ノ次第ヲ話シタル處張ハ昨日(廿三日)外交部ヨリ本件延期方ニ付意見ヲ求メ來レルニ付他ノ部ニ於テ反對ナキ限り異議ナキ旨ヲ答ヘ置キタリト述ヘタリ
依テ本官ハ右ニ付宋部長ノ了解ヲ取付クル爲直ニ宋子文ヲ訪ネタルカ多數來客中ナリシニ付秘書ヲ通シ來意ヲ告ケタル處宋ハ秘書ヲシテ直ニ張ニ對シ本件ニ對スル意見ノ具申ヲ命シ之ニ基キ決定スルコトトシ度シト答ヘシメ右ノ趣秘書ヨリ本官ニモ傳ヘタルヲ以テ本官ハ右ノ趣ヲ張ニ傳ヘ斡旋方重ネテ依頼シ張ハ之ヲ承諾セリ
北平、奉天、青島、天津、安東、關東長官ニ轉電シ、南京、上海ニ轉報セリ

983 昭和6年4月28日

幣原外務大臣より 在中国堀内公使館書記官 宛(電報) 在南京上村領事

南京 4月28日後發 本省 4月28日後着

第二五五號(至急)

往電第二四四號ニ關シ

廿八日外交部トノ間ニ不取敢稅關告示(百噸未滿ノ船舶ノ外國貿易禁止及船荷證券無キ魚類ノ輸入禁止)ノ實施ヲ暫ク延期スル事ニ話合纏リ右ノ趣直ニ外交部ヨリ財政部ニ移牒シ各地稅關ニ訓令セシムル事トナレリ

委細後報
公使ヨリ上海へ轉報アリタシ
公使、北平、奉天、天津、青島、安東、關東廳長官へ轉電セリ

985 昭和6年5月1日

在南京上村領事より 幣原外務大臣宛(電報)

海関告示は飽迄密輸を取り締ると共に本国漁業を保護するにありとの外交部覚書について

南京 5月1日後發 本省 5月1日後着

第二六九號

往電第二五七號ニ關シ

外交部ヨリ本官宛三十日附覺書ヲ以テ客月十六日附在支公使發機密公第一八一號覺書及其後手交セル日本「トローラー」ノ現狀ニ關スル説明書(往電第三四四號)ニ對シ大要左ノ通回答シ來レリ

一、公使館覺書ニハ海關ノ第一告示ヲ以テ小型船ニ依ル中國ノ外國貿易ヲ差別的方法ヲ以テ禁止スル結果トナルト(脱)海關ノ前後二回ノ告示ハ密輸ヲ防止スルト共ニ本國ノ漁業ヲ保護スル趣旨ニシテ現行漁業法ニ依ルモ漁業權ノ享有ハ本國人民ニ限定シテアリ漁業ニ關スル告(示)ハ右立法ノ結果ニシテ差別取扱ニ非ス

一、關務署ノ説明ニ關シテハ香港及澳門ト廣東「デルタ」地方諸港間ヲ往來スル百噸未満ノ汽船又ハ「モーターボート」ニ對シ禁止ノ例外ヲ認ムルハ民船ヲ曳テ入港スルモノニ限リ一般ノ例外ヲ認メタル次第ニ非ス
一、海關第二告示ハ決シテ魚類ノ輸入禁止ヲ目的トスルモノニ非ス日本漁船カ公海ニ於テ漁獲セル魚類ヲ普通ノ商品輸入ノ辦法ニ從ヒ商船ニ依リ中國各港ニ輸入スル場合ハ當

然禁止セラルルコトナシ然ルニ若シ日本ノ漁船カ中國ノ港ヲ根據地トシ中國沿岸ニ於テ漁業ニ從事スルニ於テハ直ニ中國ノ漁業權ヲ侵害シ中國漁業ノ發達ヲ阻害スルコトナ

ル
(2) 一、日本漁船ハ中國漁業者ト提携漁場ヲ開發シ何等漁場獨占ノ意圖ナシト云フモ右ハ事實ニ反ス

一、近世各國ニ於テハ外國漁船力遠洋漁業準備ノ爲食物ヲ購入スル等ノ目的ヲ以テ自國港ヲ其根據地トシテ利用スル事ヲ許シ居レリト云フモ國際慣例ハ一國カ本國ノ海港ヲ根據地トシテ外國船カ利用スル事ヲ禁止スル立法ニ對シ何等制限シ居ラス

一、外國貿易ニ從事スル外國船舶ノ噸數ニ制限ヲ加フル事ハ現ニ各國ニ於テ其先例アルノミナラス其制限噸數モ百噸以上ノ場合モアリ

一、青島ニ於ケル日本漁船ハ山東縣案解決ニ關スル條約第廿四條ノ保障ヲ受ケ居レリト云フモ該條約ニハ既得權ニ關スル問題ハ本條約ニ規定スル共同ノ委員會之ヲ審定ストアリ而シテ中日共同委員會ノ調印セル細目協定及附屬文書ニハ日本ノ漁業ニ關シ何等ノ規定ナシ然ル

上村發閣下宛電報第二六九號ニ關シ

小型船貿易及漁業禁止問題ニ付中國側ノ回答ニ對シ再抗議方ニ付テハ當方ニ於テモ考究中ノ處特ニ左ノ諸點ニ關スル中國側ノ主張ハ相當理由アルヤニ思考セラルルニ付之ニ對スル我方反駁ノ法律上ノ根據及事例其他御氣附ノ點折返シ御回電ヲ請フ

(一)魚類輸入禁止ノ告示ハ魚類ノ輸入ヲ一般的ニ禁止スルニアラス唯之カ輸入ハ普通ノ商品輸入ノ手續ニ從フコトヲ要シ此ノ手續ニ依ラサル輸入(即チ「トローラー」)ニ依ル船荷證券ナシニ輸入セラルルモノ)ヲ禁止スルニ過キサレハ何等條約違反ニアラストノ點

(二)國際慣例ハ一國ニ於テ外國船カ公海漁業ノ爲自國ノ海港ヲ根據地トシテ利用スルコトヲ禁止スル立法ニ對シ何等制限シ居ラストノ點(貴電第一五二號等各國ノ實例ハ制限ナシトノ積極的法規ノ根據少キノミナラス加奈陀香港等ニ於テ制限アル場合ノ法規アリ又往電第四一三號ノ實例モ不明ナル等先方ヲ充分首肯セシメ難シト認メラル)

(三)外國貿易ニ從事スル外國船舶ノ噸數ヲ制限スル先例アリトノ主張

日本側としては治外法権により何等制限を要せずと主張する外無き旨について

986 昭和6年5月4日 在中国重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)

委細郵報
公使ヨリ上海へ轉報アリ度シ
公使、北平、奉天、天津、青島、安東、關東廳長官へ轉電セリ

ニ「該條約ノ保障ヲ受ク」云々ト云フハ條約ヲ曲解スル嫌アリ本國政府ハ殊ニ同意シ難シ
要スルニ本件海關告示ハ中外條約及國際慣例ニ違反セス密輸ヲ取締ルト共ニ本國ノ漁業ヲ保護セントスルモノナルヲ以テ日本籍小型船舶カ引續キ其業務ニ從事シ得ル様必要ナル措置ヲ執ラレ度シトノ御申越ニ對シテハ遺憾乍ラ取計難シ云々

四山東條約ト在青島邦人漁業權トノ關係

(五)本邦籍小型船舶ノ貿易及本邦漁船ノ公海漁業準備ノ爲中國開港場ヲ利用スル權利ヲ支持シ得ヘキ法律上ノ根據ハ前述ノ如ク國際慣例ニ之ヲ求ムルヲ得ス單ニ日華通商條約第四條及中國ト各國トノ當該條項ニ於テ carry on trade, industries and manufactures, or pursue any other lawful avocations in all ports etc.

定メ居ル點並右邦人ノ從事シ得ル商工業產業及職業ノ範圍ハ治外法權ノ關係上中國ノ法律ニ依リ何等制限ヲ受ケストノ點ヲ主張スルヨリ外ナシト存セラルル處右ノ主張ハ條約ノ效力問題トノ關係上容易ニ先方ヲ承服セシメ難キヤニ思考セラル

南京ニ轉電セリ

987 昭和6年5月18日

在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

中国漁業の發達と誤解消のため日本漁船へ
の中国漁業者乗り組み方提案について

ハ中國漁業ノ發達ヲ計ルニ最上ノ方法ナルノミナラス中國漁業者カ日本漁船ニ乗組ムコトトナサハ日本漁船カ中國ノ領海ニ於テ漁撈シ若クハ中國漁船ニ損害ヲ與フト云フカ如キ中國側ノ誤解ヲ立所ニ解キ得ルノ利益アリ右ハ實ニ本件禁止ノ如キ消極的手段ニ依リ徒ニ兩國ノ關係ヲ紛糾セシメ而モ中國漁業ノ發達ニ何等貢獻シ得サル案ニ比シ遙ニ賢明ナル解決案ナリト考ヘラル就テハ中國側ニ於テ右案採用ニ同意ナルニ於テハ本官ハ代理公使ニモ御話シ出來得ルタケノ便宜ヲ供與スル様盡力スヘシト説明シタルニ江ハ自分トシテハ甚タ面白キ案ナリト考ヘラルルニ付早速實業部側ト協議スヘシ就テハ右案ヲ文書トシテ御送り願ヒ度キ旨申出テタリ又本官ハ右ハ本官限りノ考案ナルニ付公文ハ差上ケ難キモ會談ノ趣旨ヲ「コンファーム」スル意味ノ文書ヲ差上クヘシト答ヘ江モ承知セルニ付右ハ十六日附ヲ以テ送付シ置キタリ

尙江ニ對スルト同様ノ内容王家楨ニモ詳細話シ置キタリ
右不取敢

上海へ轉報アリタシ

大臣、北平、奉天、天津、青島、安東、關東長官ニ轉電セ

南京 5月18日後發
本省 5月18日後着

第三一六號

本官發在上海重光代理公使宛電報第三〇一號

大臣宛拙電第二五七號ニ關シ

其後江華本ヨリ本件實施延期ニ對シテハ各地漁業關係者ヨリ反對ノ言頻々トシテ集リ實業部ヨリモ速ニ日本側ト交渉方督促シ來レル趣ヲ以テ我方ノ考慮ヲ求メ來レルニ付本官ハ代理公使トノ御打合せニ從ヒ本官限りノ考トシテ本件ニ關スル外交部回答ノ各點ハ孰レモ我方ノ承服シ得サル所ナルヲ以テ何レ我方ヨリ文書ヲ以テ一々反駁スル管ナルカスル議論ニ依リテ本件ノ早急解決ヲ期スルコトハ困難ナリト考ヘラル然ルニ中國側ノ説明ニ依レハ本件告示實施ノ目的ハ一ニ中國漁業ノ發展ヲ計ルニアリトノコトナルカ専門家ノ意見ニ依ルモ中國漁業ノ發達セサル所以ハ漁場ノ測定及新式技術ニ習熟セサル爲ナルコト明カナリ故ニ日本漁船ハ現狀ノ儘トシ寧ロ之ヲ利用スルコトヲ考ヘ即チ中國漁業者ヲ日本漁船ニ乗組マシメ漁業ニ必要ナル操船及新式漁具ノ操縱並ニ魚類集散ノ測定ニ關スル技術ヲ習得セシムルコト

リ

988 昭和6年5月19日

在青島堀総領事代理より
幣原外務大臣宛(電報)

日本人漁業者側が発動機船に重点を置き漁船を
これ以上増加させないなどの妥協案を用意について

青島 5月19日後發
本省 5月19日後着

第一〇二號

本官發代理公使宛電報第六二號

外務大臣宛貴電第四四一號末段ニ關シ當地邦人漁業ハ他ノ地方ト異リ既得權タル關係上此儘支那側ヲシテ承認セシムルコト希望ニ堪ヘサル次第ナルモ萬一中國側ト妥協交渉上何等カノ讓歩ヲ絕對必要トスル場合ニハ當業者ハ大体左記妥協案ヲ覺悟シ居ル模様ナリ

(第一) 漁業ニ關シ(一)是以上漁船ヲ増加セス即チ發動機船四十二隻帆船四十隻ヨリ成ル現有隻數ヲ維持ス(二)最近發動機船ニ主力ヲ注キ居ル當地邦人漁業ノ實際ニモ鑑ミ(組合員中汽船從業者三百七十二名帆船百二十名)發動

機船數ハ現状ヲ維持シ帆船ノミハ最少限度二十隻位ニ減スルモ差支ナシ

(第二) 從來事實上水産組合ニ於テ獨占的ニ經營シ來レル陸上販賣施設(魚市場及附屬金融組合)ニ關シ(一)大臣宛往電第九三號ノ如ク目下中國側ニ於テ漁業公司ヲ設立シ「ポイコット」ヲ實行シツツアル次第ニテ之カ緩和ノ爲必要アラハ右販賣施設ヲ中國法ニ依ル中日合辦組織トス(二)場合ニ依リテハ右施設ヲ擧ケテ一定ノ評價ニ基キ中國側ニ讓渡ス

右御參考迄尙中井水産組合長以下三名本件ニ關シ陳情ノ爲近日中貴地ニ赴ク筈ニ付委細同人等ヨリ御聽取相煩ハシ度シ
上海へ轉報アリタシ
大臣、北平、奉天、天津、南京、安東、關東長官ニ轉電セリ

989 昭和6年5月22日 幣原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使宛(電報)

日本人漁業禁止問題に關シ生活權と日中友好

(別電)

本省 5月22日後11時10分發

第一八〇號(暗)

往電第一七九号前段ニ関シ当方意見左ノ通

一、中国ト諸外国トノ條約ニ依リ中国カ輸入禁止ヲナシ得ルモノハ一定ノ品目ニ限定セラレ魚類ハ右品目中ニ存セス然ルニ公海漁獲物ノ輸入ニ付船荷証券及 Bond of the 商船ヲ要スルハ中国近海ノ公海漁業者ニ事実上ノ不能ヲ強フルモノニシテ輸入ノ禁止ニ等シク條約違反トナル(本邦税関ニ於テハ船荷証券ノ提示ヲ要求シオラサル処中国税関ハ一般輸入貨物ニ付右提示ヲ通關上ノ必要条件トナシオルヤ御取調アリタシ)

二、外国船カ公海漁業ノ爲自國ノ海港ヲ根據地トシテ利用スルヲ禁スルコトノ違法ナリヤ否ヤハ二國間(又ハ數國間)條約規定ニ依リ決スルノ外ナク右ニ関スル一般國際法規ノ存セサルハ論ヲ俟タス曩ニ我方カ諸文明國ノ例ヲ引用シタルハ専ラ中国側ノ國際情誼ニ訴ヘ其ノ反省ヲ促サントスル趣旨ニシテ何等右ノ如キ國際法問題ノ論據ニ使用センカ為ニアラス

關係に及ぼす影響の点より説得努力方訓令

別電

五月二十二日發幣原外務大臣より在中國重光臨時代理公使宛第一八〇号

本省の意見

本省 5月22日後10時30分發

第一七九號(暗)

貴電第四二五号及第四四一号ニ關シ

貴電第四二五号御申越ノ諸臆ニ関スル当方意見別電第一八〇号ノ通ナルニ付中国側へノ文書回答方可然御取計相成我方論據支持ニ努メラレ度尙右ノ外貴官ハ中國側各当局ニ對シ本件ヲ條約論ヨリ離レテ見ルモ多數邦人ガ中国ニ於テ多年平穩ニ營ミタル生業ヲ一挙ニシテ禁止シ且生活ノ資ヲ奪ハムトスルハ社會上又ハ人道上ノ見地ヨリスルモ甚シキ冷酷ノ處置ト云フノ外ナク若シ中国側カ強ヒテ之ヲ決行スルニ於テハ其ノ日華友好關係ニ及ホス影響憂慮ニ堪ヘサルモノアル旨ヲ可然布衍力説シテ先方ノ説得方ニ努メラレ本件ノ円滿解決方此上トモ御尽力相成度シ
南京へ轉電セリ

三、外國貿易ニ從事スル船舶ノ屯數制限ニ関スル歐米諸國ノ実例取調中ニ付不日判明次第電報スヘキモ假ニ実例アリトスルモ右ハ其ノ目的方法ノ如何ニ依テハ現行諸外國間通商條約ノ普通ノ規定タル日独通商條約第四條(通商自由)乃至第十四條及第十五條(船舶ノ國民待遇)ノ如キ規定ト抵觸ストノ論モ立チ得ヘシ(中国トノ條約ニ於テハ船舶ノ國民待遇規定ナキコト御承知ノ通ナリ)

尚少クトモ廣東ニ関シテハ百噸未満ノ船舶禁止ニ付差別待遇ノ事實存スルコト貴官宛廣東發電報第七一号ノ通

四、山東條約ト在青島邦人漁業權トノ關係ニ付テハ日支共同委員會ノ際支那側ニ於テ問題トシタルハ邦人農業經營權ノミニシテ漁業權ニ関シテハ最初ヨリ問題トナリタルコトナク又其後モ細目協定附屬書ニ既得權調整ノ條項存スルニ拘ラス本件漁業權ニ付支那側ヨリ何等ノ申出アリタルコトナキ事實ヲ指摘シ青島ニ於ケル邦人漁業ハ爾來今日ニ及フ八年ノ久シキニ亘リ合法且公正ニ取得セラレタル既得權トシテ認メラレ居タルモノナ

ルニ單ニ共同委員會ニ於テ adjust セラレサリシ故ヲ以テ既得權ニアラスト謂フノ不合理ナルコトハ當時ノ記録ヲ見ルモ明ラカナリトノ趣旨ヲ強調スルコト、致度

五、日華通商條約第四條及中國ト各國トノ當該條項並治外法權ノ與ヲ援用スヘキハ貴見ノ通

尚法權問題ニ付商議ヲ進メツ、アル今日ニモアリ本件交渉ノ為芳沢公使王正廷間現狀維持ノ諒解ヲ引用シ可然ト認ム

南京へ轉電セリ

990 昭和6年6月3日 在中國重光臨時代理公使より 幣原外務大臣宛(電報)

外交部長より公文にて税関密輸取締り区域の境界を十二海里に正式規定の旨申越しについて

南京 6月3日後発
本省 6月4日前着

第四九〇號

客年在南京領事發本官宛第一三九號ニ關シ

當該國ノ權力行使モ出來得ル限り之ヲ認メサル方針ヲ以テ臨ミタリ(ハ)又「ソ」聯邦カ自國法規ニ依ル領海十二海里主義ヲ楯ニ同國領海三海里外ニ於テ我カ工船漁業ヲ妨害シタル際ニモ我方ハ強硬ナル態度ヲ以テ之ニ抗議シタル爲大正十五年九月在本邦「ソ」聯邦代理大使「ベセドフスキー」氏ヨリ口頭ヲ以テ三海里外十二海里内ニ於テ日本船ヲ拿捕セサルヘキ旨我方ニ言明シ以テ今日ニ及ヘリ要スルニ我方トシテハ前記日米條約第二條(三)ニ於ケルカ如ク特別ノ取極アル場合ヲ除キテハ外國カ領海三海里外ニ於テ本邦船舶ニ對シ權力ヲ行使スルコトヲ認メサル次第ナリ

二、貴官宛六月二日附外交部公文ニ依レハ中國側ハ海關密輸取締ニ關シテノ境界ヲ十二海里トスル趣旨ナルモ領海ニ關スル前記我方ノ主義ニ顧ミ之ヲ容認シ難キノミナラス中國側ハ今後漁業取締其他ニ付テモ漸次十二海里主義ヲ執ルニ至ル虞ナシトセサルニ付貴官ハ外交部宛公文ヲ以テ前記一ノ趣旨ニ依リ本邦船舶ニ關スル限り三海里領海内ニ於テ現行條約上中國側ノ講シ得ヘキ密輸防止措置ト雖モ三海里以外ニ於テハ絕對ニ之カ

外交部長ヨリ本使宛二日附公文ヲ以テ本件税関密輸取締ヲ行フ爲今般國民政府ハ十二海里ヲ其境界トナスコトニ正式規定セル旨申越セリ

委細公信

右ニ關スル御意見早日ニ御回電ヲ請フ

南京、上海へ轉報シ北平へ轉電セリ

991 昭和6年7月2日 幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)

領海三海里説を堅持方訓令

本省 7月2日発

第二二二號(至急) 貴電第四九〇號ニ關シ

一、從來帝國政府ハ領海三海里説ヲ採リ(イ)昭和三年五月三十一日日米間ニ調印セル酒類輸送取締ニ關スル條約第一條ニ於テモ右主義ヲ宣明スル所アリ(ロ)客年三月海牙ニ開催ノ國際法典編纂會議ハ領海問題ニ關スル限り何等纏マル所ナクシテ終了セルモ同會議ニ於テモ我方ハ領海ヲ三海里ニ限定スルト共ニ領海隣接區域ニ對スル

容認ノ限りニアラサル旨回答シ置カレ度シ

尙本件ニ對スル列國ノ態度ニ關シ在北平矢野參事官トモ連絡ノ上當方參考迄御査報アリタシ

上海、南京へ轉報アリタシ

北平へ轉電セリ

992 昭和6年7月2日 幣原外務大臣より 在中國重光臨時代理公使宛(電報)

中國側三海里採用に關し嚴重我が方の趣旨申

し入れ結果回示方訓令

本省 7月2日後10時5分発

第二二三號(至急、暗)

上海發本大臣宛電報第二八九号ニ關シ

我方ニ於テ三海里以外ヲ中國領海トシテ認メ得サル次第ハ往電第二二二号ノ通ナルカ中國側カ三海里以内ニ於テモ軍艦ヲ以テ日本漁船ニ對シ驅逐抑留等ノ強力行為ニ出ツル如キ場合ニハ我方ニ於テモ實力ヲ以テ相当ノ措置ヲ講セサルヲ得ス斯クテハ由タンキ事態ヲ生スル虞レアル次第ニ付貴官ハ至急國民政府當局ニ對シ本件海軍部発表ノ実否ヲ訊サ

ルルト共ニ嚴重上述ノ趣旨ヲ申入レラレ結果回電アリタシ
北平天津青島安東芝罘東長官ニ轉電セリ
上海発本大臣宛電報第二八九号ト共ニ奉天牛莊ニ轉電セリ
上海発本大臣宛電報第二八九号ト共ニ南京杭州汕頭厦門福
州廣東香港ニ轉電シ上海ニ轉報アリタシ

993 昭和6年8月31日 幣原外務大臣より
在中国重光公使宛

小型船舶の外国貿易および漁業禁止に関する
外交部宛我が方覚書大要について

通一機密第一六八號

昭和六年八月三十一日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在中国

公使 重光 葵殿

小型船舶ノ外國貿易及漁業禁止ニ関スル件
本件ニ関シ七月十三日附機密公第二九六號ヲ以テ御送付
ノ中國側回答簡悉シタル處右回答ハ前二回ニ亘ル我方抗
議ニ對シ何等有力ナル反駁ヲ加ヘ居ラス他方我方ノ主張

品ノ輸入手續ニ從ヒテ輸入スルコトヲ禁止セサル旨主
張シ居ルモ漁船カ公海ニ於テ漁獲シタル魚類ヲ商船ニ
積込ミ以テ中國ヘノ輸入ヲ計ルカ如キハ事實上不可能
ニシテ從ツテ漁船ニ依ル魚類ノ輸入禁止ハ一般商品ノ
輸入手續ヲ此種魚類ニ適用スルコトニ依リテ何等緩和
セラルルモノニアラス他方中國ト各國トノ條約ニ於テ
中國ニ貨物ヲ輸入シ得ル船舶ニ關シテハ何等ノ制限ナ
ク條約ノ關係條文ニ據ルモ將又國際ノ慣行ニ顧ミルモ
漁船カ其漁獲物ヲ輸入シ得ヘキコト疑ノ餘地ナシ從テ
漁船ニ依ル魚類ノ輸入ヲ禁止セントスル中國政府ノ措
置ハ條約及國際慣行ノ違反ト斷セサルヲ得ス

一、中國ノ開港場ニ於テ外國人カ商業、工業、産業其ノ他
合法ナル一切ノ營業ニ從事スルノ條約上ノ權利ヲ有ス
ルコト竝外國漁船カ公海ニ於ケル漁業ノ準備ノ爲中國
ノ開港場ニ出入スルハ即チ開港場ニ於テ正當ナル營業
ニ從事スルモノニシテ正ニ條約ノ認ムル權利ノ行使ナ
ルコトハ前回ノ覺書ニ陳述シタル通ナリ然ルニ日本公
使館ノ右主張ニ對シ外交部ハ中國海關ノ禁令ハ何等中
國港ニ於ケル正當ナル營業ヲ禁止シ居ラサル旨ヲ答フ

ハ既ニ殆ト詳述シ盡シタル次第ナルモ之ヲ此儘默殺シ置
クトキハ我方ニ於テ先方ノ主張ヲ容認シタルヤノ誤解ヲ
与フル虞アルニ付反復ヲ顧ミス大要左記ノ趣旨ニテ重ネ
テ先方ニ覺書ヲ送付スルコト、致度右可然御取計相成度
シ

記

一、中國ト各國トノ通商條約ニ於テ締約國ノ船舶ハ自由
ニ中國ノ開港場ニ到リ得ヘキ旨ヲ規定シ船舶ノ噸數ニ
付テ何等ノ制限ヲ設ケ居ラス換言スレハ船型ノ大小ヲ
問ハス自由ニ中國港ニ往來シ得ヘキハ締約國船舶ノ條
約上認メラレタル權利ニシテ數十年來ノ久シキニ亘リ
テ何等支障ナク實行セラレタル處ナリ中國政府ハ小型
船舶ノ外國貿易禁止ヲ以テ密輸入防止ノ手段ナリトス
ルモ密輸防止ノ爲ニハ他ニ幾多ノ方法アルノミナラス
之カ爲ニ外國船舶カ中國側ノ一方的措置ニ依リテ條約
上永年享受セル權利ヲ一瞬ニ喪失セシメラルヘキ理由
ヲ發見スル能ハス

一、漁船ニ依ル魚類ノ輸入禁止ニ關シ外交部ノ回答ハ日本
ノ漁船カ公海ニ於テ捕獲セル魚類ヲ商船ニ依リ一般商
ルト雖右ハ中國官憲カ百噸未満ノ汽船竝發動機船ノ入
港ヲ禁止スル中國海關ノ布告ヲ理由トシテ邦人漁船ノ
中國開港ヘノ出入ヲ禁シ以テ右開港ニ於ケル本邦人ノ
漁業關係營業ニ致命的打撃ヲ與ヘツツアル條約違反ノ
措置ヲ故意ニ看過スルモノニシテ日本公使館ノ斷シテ
承認スル能ハサル處ナリ

一、青島地方ニ於ケル日本人ノ漁業權ニ關シ中國側ニ於テ
ハ山東懸案解決ニ關スル條約第廿四條ノ「既得權」ナ
ルモノハ同條約ニ定メタル聯合委員會ニ於テ審査ノ上
決定スヘキ筈ナリト主張シ居ル處同條第一項ハ我方既
得權ノ尊重セラルヘキヲ定メ第二項ハ右既得權ノ地位
又ハ效力ニ關スル一切ノ問題ハ日支共同委員會ニ於テ
調整セラルヘキコトヲ規定セルモノニシテ即チ其解釋
上既得權ノ存在ハ第一項ニヨリ原則的ニ承認セラレ但
右ノ中日華双方ニ意見ノ相違アル場合ハ之ヲ共同委員
會ニ附議調整セラルヘキコトヲ第二項ニ於テ定メタル
モノト謂フヘク中國側ノ主張スルカ如ク既得權其ノ物
ノ存否カ共同委員會ニヨリテ決定セラルルモノト解ス
ヘキニ非ス從テ漁業權ノ如ク共同委員會ニ附議セラレ

上海 發
本省 9月7日後着

漁業禁止問題に関する中国側第二次回答に対し我が方の対策につき請訓

994

昭和6年9月(7)日

在中国重光公使より
幣原外務大臣宛(電報)

編注七 「解」の箇所に「信」との書き込み訂正あり。

正あり。

編注六 「ヲ表示セラレタ」の箇所に「ア」との書き込み訂

り。

編注五 「ヲ無視」の箇所に「ニ抵触」との書き込み訂正あ

り。

編注四 「之ヲ至リテ」の箇所に「之カ實行ヲ弁護セント

スルカ如キ」との書き込み訂正あり。

編注三 「通商條約」の箇所に「前述ノ理由」との書き込み

訂正あり。

代ニ合法且公然ニ取得セラレタルモノナリ」との書

き込みあり。

サリシモノハ其既得權タルコトニ付双方何等異議ナク之ヲ委員會ノ調整ニ待ツヲ要セストナセルモノト認メラレ中國側ノ言フカ如ク共同委員會ニ附議セサリシカ故ニ既得權ニ非ストナスハ條約ノ曲解ナリ之ヲ當時ノ實情ニ照シ考察スルモ既ニ中國側ノ指摘セルカ如ク日本漁船カ中國ノ海港ヲ根據地トセルハ青島一ヶ所ノミニ止ラス他ノ海港ニ於テモ其ノ例ヲ見タリ右ハ何レモ一般通商條約ニ其ノ根據ヲ有スル正當ノ權利ナルコト前述ノ通ニシテ山東懸案解決ノ日支共同委員會ニ於テハ既得權問題ニ關聯シ礦産、鹽業、土地及農業等ノ諸事項ニ付テ論議アリタルモ漁業ニ付テハ日支双方何等疑義ヲ起スコトナクシテ已ミタルハ要スルニ山東ニ於ケル邦人漁業ハ通商條約ニ基ク當然ノ既得權トシテ之ヲ問題トセサリシモノト謂フヘク右ハ其後八ヶ年ノ歲月ヲ閱スル今日迄何等問題ノ起ラサリシニ觀テモ歴然タリ

一、若シ夫レ外交部回答力近世各國ニ於テハ外國漁船カ他國ノ港ヲ其ノ根據トシテ出入スルヲ禁セス又外國船舶ノ噸數ニ制限ヲ設クルノ事例極メテ少シト雖モ右禁止

制限ハ國際慣例上之ヲ加フヘカラストスル性質ノモノニハ非サルノ故ヲ以テ之ヲ實行スルモ何等憚ル所ナシト云フニ至リテハ其ノ日華兩國ノ條約關係ヲ無視スル點ヲ暫ラク措クトスルモ右ハ兩國ノ複雜緊密ナル經濟關係ヲ無視スルモノト謂フ可ク若シ如斯理論ヲ以テ推移セハ兩國國民相互居住往來ノ基礎ハ茲ニ重大ナル動搖ヲ來スニ至ルコトナキヤヲ惧ル日本公使館ハ兩國親善關係ノ維持發展ヲ恒ニ念トスル中國政府カ此種一片ノ理論ヲ以テ事實本問題ヲ處理スルノ意思ヲ表示セラレタルモノト解スル能ハス

一、日本公使館ハ以上陳述セル處ニヨリ小型船舶ノ外國貿易禁止及漁船ニ依ル魚類ノ輸入禁止ニ關スル中國政府ノ措置ヲ不法且不當ナリトスル從來ノ主張ヲ變更スルノ理由ヲ見ス中國政府ニ於テ速ニ是等ノ措置ヲ全然廢止セムコトヲ茲ニ重テ要望スルモノナリ

編注二 「ニシテ」の箇所に「又青島ニ於テハ日本國行政時

貴電第三二六號ニ關シ

漁業問題民國側第二次回答ニ關シテハ右貴電ニ依リ更ニ抗議ヲ提出スヘキモ之ニ依リ我方ノ主張ヲ認メシムルコトハ事實不可能ナルヘク他方本使發青島宛電報第一五號其他ノ電報ニ依リ御承知ノ通實業部ニテハ頻リニ本件延期ノ急速終了ヲ督促シ漁業取締法ノ制定ヲ急キ居リ外交部財政部ニ於テ當方トノ話合ヲ尊重シ漸ク之ヲ抑ヘ居ル模様ナルカ現下ノ政局カ一度南京側ノ有利ニ解決スル場合ニハ恐ラク實業部主張ノ如ク本件禁止ヲ斷行スルニ至ルヘシト存セラル他方邦人漁業者ノ立場ヲ見ルニ青島ニ於テハ歸港問題漸ク解決シタルモ中國側「ボイコット」及輸入税問題等ノ爲之等漁船力歸港ノ上從來通りノ事業ヲ續ケ得ルヤハ頗ル疑ハシク上海ニ於テモ排日ノ爲殘留船(現ニ八隻アリ)ハ其後殆ト休業シ居リ全部歸港ノ場合青島ト同様ノ困難アルヘク又關稅ニ付テモ從來通關業者ノ手ニ依リ相當安ク評價サレ居タルモ之等通關業者ニ不正行爲アリ之ト手ヲ切リタル處彼等ハ稅關検査員ニ對シ漁業者ニ不利ナル見積リヲ爲シ居ル爲其後嚴格ニ評價サレ採算上困難ナル狀態ナリ右ノ内中國人側ノ販賣妨碍ハ目下ノ排日運動下火トナル場合ニ

於テモ本問題未解決ノ状態ヲ續クル間ハ之ヲ除クコト頗ル困難ナルヘク又輸入税問題ニ付テモ同様ノ困難アリト存セラル旁々當地漁業者ハ此際以上ノ困難ヲ避クルニハ日民合辨又ハ中華人ニ依ル傭船ノ形式トスルヨリ外ナシト認メ内々中華人ニ渡リヲ付ケ居リ當方トシテハ右運動ニ依リ我方ノ交渉ニ支障ヲ及ボササル様指導シ居ル現状ナリ

右ノ如キ事情ニ於テ我方ノ對策トシテハ(一)上記ノ不便ヲ忍ヒ此儘現状ヲ續ケ中國側ニ於テ禁止斷行ノ處置ヲ執ル場合ニ斷然之ニ反對シ場合ニ依リ適當ノ妥協案ヲ提示スヘキヤ(二)或ハ今日當方ヨリ前記當地當業者ノ意向乃至青島水産組合ノ意向(青島發本官宛電報第六二號)其他例ヘハ相當永キ一定年數ヲ限り現状維持ヲ約シ唯中華側ノ面子ヲ立ツル爲毎年又ハ數年毎ニ一定數(極メテ少數)ノ漁船ヲ減少スル等適當ノ妥協案ヲ提示シテ一面右ニ依リ解決ヲ圖ルト同時ニ他面之ニ依リ中華側ヲシテ一方的ニ延期終了ノ舉ニ出ツルノ口實ナカラシムルコトスルヤノ外ナキ處漁期切迫ノ折柄右何レニ依ルヘキヤヲ決定スルコト緊要ナリト存セラレ右ニ付何分ノ儀早日ニ御回示ヲ請フ

北平、奉天、青島、安東、關東廳ニ轉電シ上海、南京へ轉

會議ニ於テモ Continuous sea ノ主張アリ中國政府カ今回密輸取締ノ實效ヲ收ムル爲ニ海關ノ取締範圍ヲ十二海里トシタルハ警察上財政上正當ナル必要ニ基キ規定シタル次第ナリ米國ノ酒類密輸取締ノ例ノ如キハ別問題ニシテ酒類ト絕對禁制品トハ自ラ別箇ニ論セラルヘク沿海國家カ必要ト認ムル場合尙取締範圍ヲ擴張シ得サルモノトセハ公海ノ自由ハ却テ更ニ海賊等ニ便スル結果トナルヘク中國海關カ十二海里ト規定シタルハ番ニ正當貿易商人ニ於テ何等障害ヲ受クル事トナラサルノミナラス直接又ハ間接ニ保護ヲ受ク

報セリ

995 昭和6年9月15日 在中国重光公使より 幣原外務大臣宛(電報)

中国側が領海十二海里を密輸防止の観点より採用せる旨外交部長公文にて申越しについて

上海 9月15日後発 本省 9月15日後着

第九三三號

王外交部長ヨリ十四日附本使宛公文ヲ以テ大要左ノ通申越セリ

海關取締區域ノ擴張方ニ關シ歷來沿海國家ノ條例ニ照シ近クハ米國政府カ酒類ノ輸入取締ニ當リ執リタル處置ニ顧ミ今次中國政府カ之ヲ十二海里ト決定シタル事ニ對シテハ日本國民ハ正ニ其拘束ヲ受クヘキニ非ストノ趣旨ノ御照會接到セリ然ルニ各國領海ノ範圍ニ關シテハ意見ヲ異ニシ領海以外ノ海洋ニ付テハ原則トシテ自由ヲ認ムト雖モ一國カ財政警察又ハ衛生上必要ニ應シテ其正當ノ權力ヲ領海以外ノ區域ニ及ホス事ハ決シテ其例無キニ非ス最近ノ國際法編纂

ル所以ニシテ各關係國政府ハ其本國ノ領海範圍決定ニ如何ナル制度ヲ採用シ居ルヤニ關セス中國ノ本件規定ニ關シテハ凡テ異議無キ處ニシテ領海ノ範圍ト取締ノ必要區域トハ自ラ別問題ヲナシ一律ニ論スヘカラス從テ御照會ノ日本商民ハ此種規定ニ依リ何等拘束ヲ受クヘキニ非ストノ御趣旨ハ中國政府ノ承認シ得サル所ナリ 原文郵送ス 北平へ轉電シ上海、南京へ轉報セリ